

COMPLETE GUIDE

AIネイティブな Web運営 完全ガイド

サイトの「作り方」ではなく、「その後の働き方」が変わる。



株式会社webull / 2026年7月版

この資料で分かること

01
— WordPressとAIネイティブ運営の、仕組み・働き方・
コストの違い

03
— 移行を判断する前に、必ず把握すべき3つの注意点

02
— 「ヘッドレスCMS」「静的サイト」など新しい概念の意味
(専門知識不要)

04
— よくある疑問への回答(AIが間違えたら? 誰が
更新するの? 等)

PREMISE

前提：どちらでもサイトは作れる

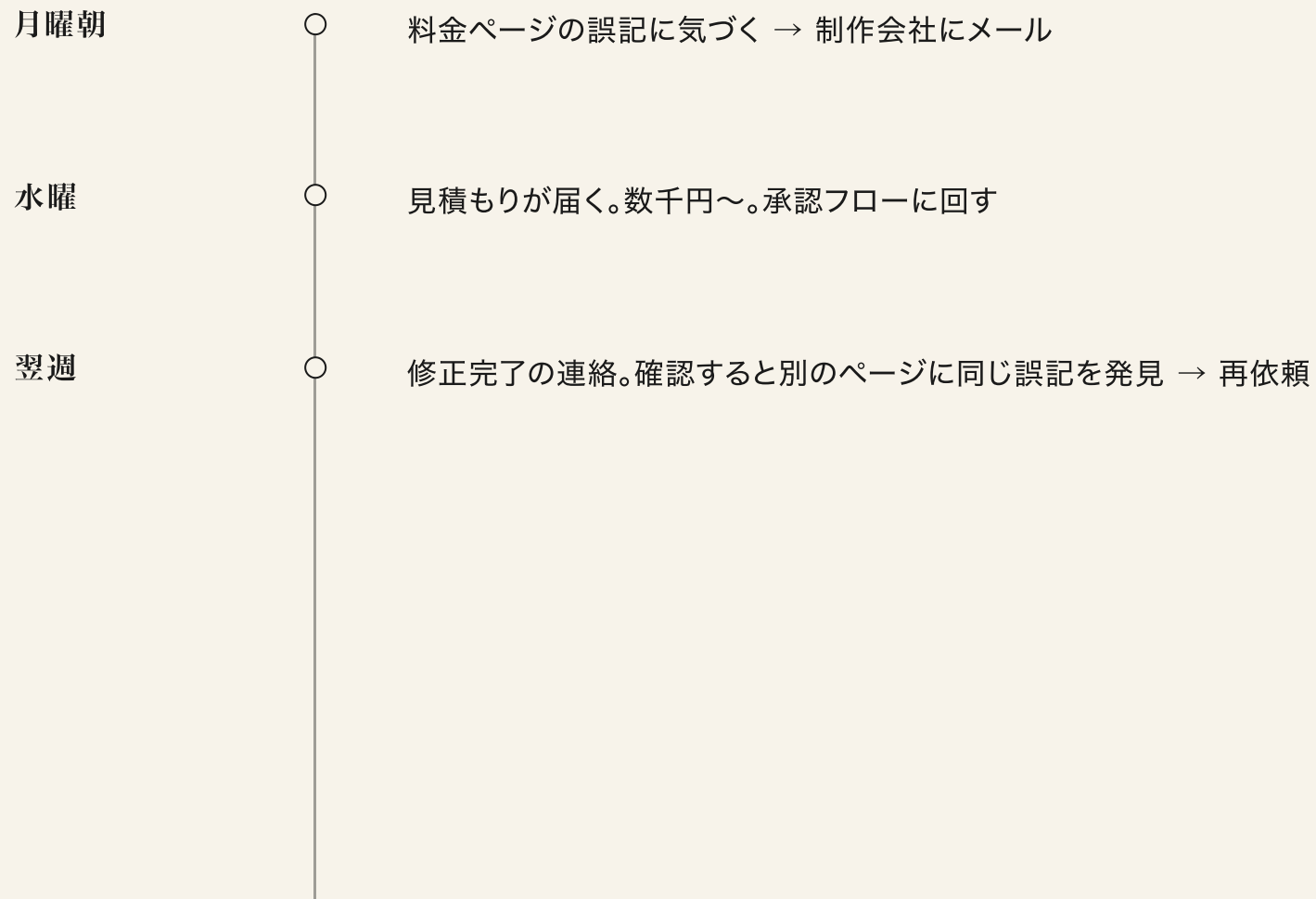
どちらを選んでもサイトは作れます。

違うのは『作り方』ではなく、

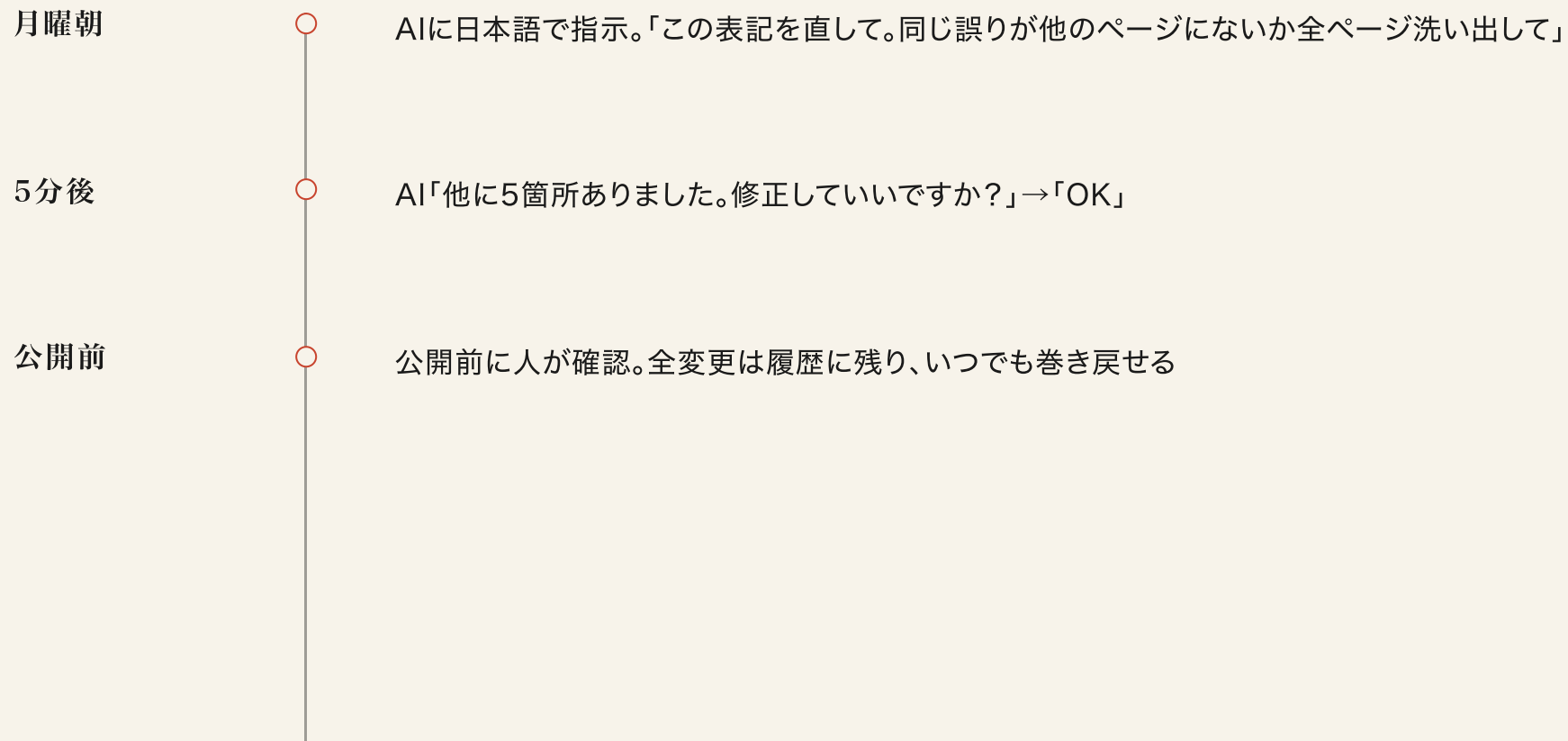
『その後の運営のされ方』＝働き方です。

この資料は、その違いだけを正確にお伝えします。

ある会社の日 Before (WordPress運用)



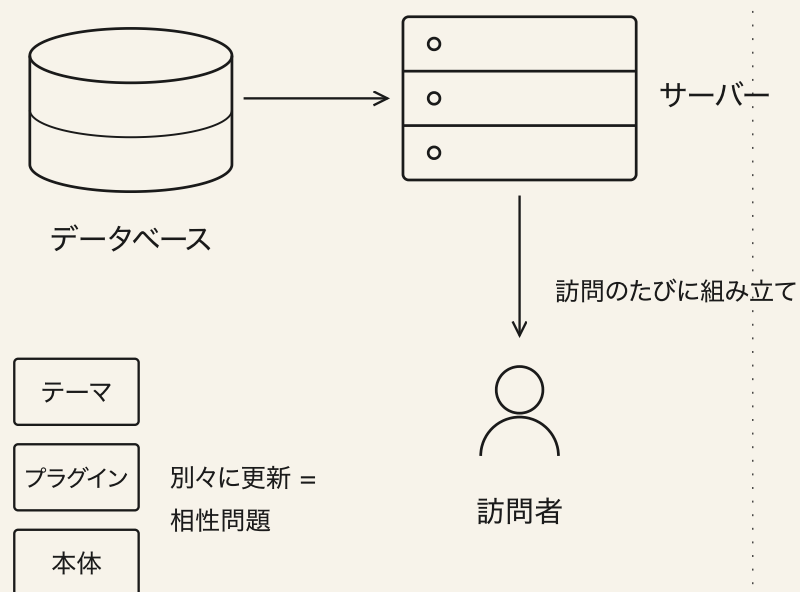
ある会社の日 After (AIネイティブ運用)



一往復の速さではなく、『一度の指示で動く範囲』が桁違い。これが働き方の差です。

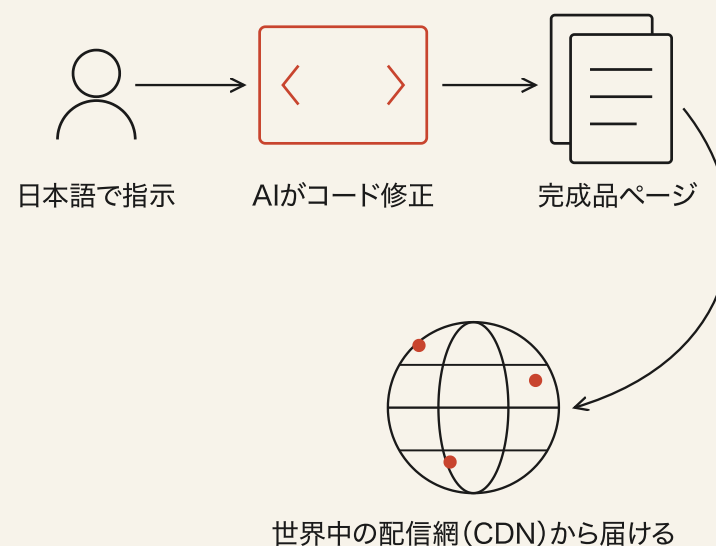
仕組みの違い

WordPress (動的生成)



- ・中身はデータベースに格納。
訪問のたびにサーバーがページを組み立てる
- ・見た目は「テーマ」、機能は「プラグイン」の組み合わせ
- ・テーマ・プラグイン・本体が別々に更新され続けるため、
相性問題が常に付きまとう(「更新したら崩れた」の原因)

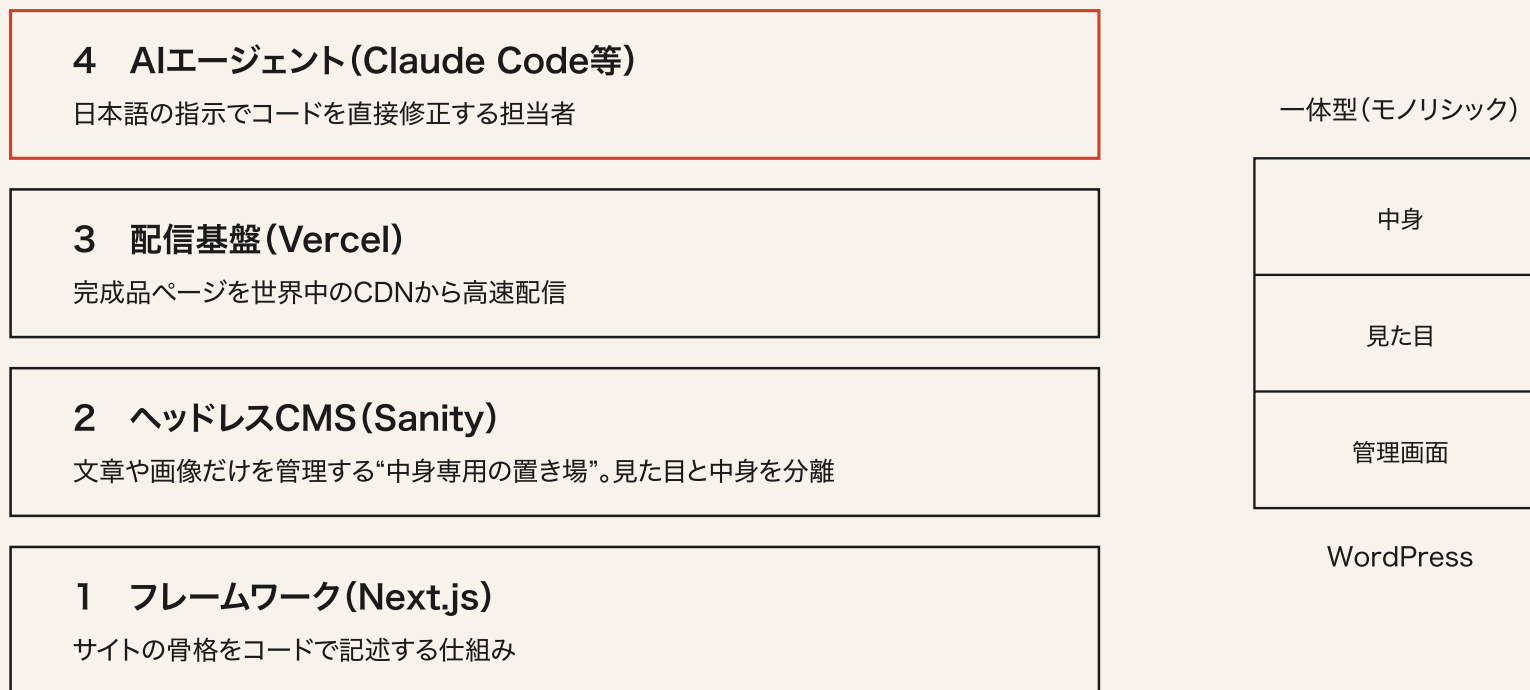
AIネイティブ (静的生成)



- ・サイトはコードとして一から記述。テンプレートなし、完全オリジナル
- ・ページはあらかじめ完成品として生成し、
世界中の配信網(CDN)から届ける。だから速い
- ・更新はAIエージェントに日本語で指示 → AIがコード修正
→ 人が確認して公開
- ・全変更がGit履歴に残り、任意の時点へ巻き戻せる

用語の整理(4層の図)

AIネイティブ運営を支える構成は、業界では『ヘッドレス構成』『Jamstack』と呼ばれます。役割は4層です。



WordPressは中身・見た目・管理画面が一体型(モノリシック)。ヘッドレス構成はそれらを分離し、すべてがコードとテキストであるため、AIが直接扱えます。これが『AIネイティブ』の技術的な意味です。

「育てる」の正確な意味

- ー よくある誤解: 「使ううちにAIが学習して賢くなる」→ AI本体(モデル)は学習しません
- ー 正しい仕組み: 修正のやり取りで出た判断(「この言い回しは使わない」等)を、運用ルールブック(design.md等)に書き足す
- ー AIは毎回、作業前にルールブックを読む。だから同じ指摘は二度と出ない

結論: 「AIが賢くなる」のではなく「**ルールブックが厚くなる**」

重要 厚くなったルールブックは御社の資産。AIのモデルが変わっても、担当者が替わっても引き継がれる(WordPressのテーマは制作会社に紐づくが、設計図とルールは御社に紐づく)

トーン&マナーが崩れない理由

- ー 人の手が入り続けるサイトは、担当者ごとの癖でフォントや色が少しずつ増える
- ー フォントが3種類を超えると、それだけで「情報が多い」印象になる
- ー AIネイティブではルールブックに「フォントは2つ」「色はこの範囲」と定義。AIは何百回更新してもルールから外れない

世界観の維持を、人の注意力ではなく**仕組み**で担保する

セキュリティ比較

WordPress

- ー 世界のサイトの約4割がWordPress = 攻撃者にとって最大の標的
- ー 侵入経路の大半はプラグインの脆弱性。定期更新が「義務」になる
- ー ログイン画面が外部公開されており、総当たり攻撃の対象になる

AIネイティブ(静的サイト)

- ー 公開されるのは完成品ページだけ。管理画面もデータベースも外部に存在しない
- ー 攻撃面そのものが極端に小さい
- ー 更新経路はGitとデプロイ権限に限定。誰がいつ何を変えたか全記録

速度とSEO

- － Googleは表示速度(Core Web Vitals)を検索順位の要素にしている
- － 静的生成+CDN配信は、都度生成のWordPressより構造的に速い
- － 速度は順位だけでなく離脱率に直結

※WordPressも高速化はできるが、キャッシュプラグイン等の追加対策の積み上げになる

コスト構造

	WordPress	AIネイティブ
初期	安い(テーマ利用)	設計図・ルール整備に投資
月々	保守費+プラグイン管理	軽い(構造的に壊れにくい)
数年後	テーマ陳腐化→リニューアル費が再発(数年ごと)	設計図が生きている限り、部分更新で持続

短期はWordPressが安く、長期はAIネイティブが安い。初期の差額は『**設計図**』という資産の対価です。

「段階移行」を考えている方へ

合理的な面があります。ただし3点、把握が必要です。

- 01 二重投資: WordPressで作り込んだ世界観・構成は、移行時にもう一度作り直しになる
- 02 移行判断の先送り: 「いつ切り替えるか」を決められないまま、改修が続きがち
- 03 学習が2回: スタッフはWordPressの運用を覚え、後にAIの運用を覚え直す

条件は一つ 「最初からAIネイティブ移行を前提にした設計図を作っておくこと」。移行時に世界観を作り直さずに済み、二重投資を最小化できます。

AIは強力。しかし、丸投げでは不十分

10%

FIRST

はじめの10%: ビジョンと世界観を描き、AIが
暴走しないための設計図とルールをつくる。

人の仕事

80%

MIDDLE

まんなかの80%: 実装。AIをフル活用し、
圧倒的なスピードと量をこなす

10%

LAST

仕上げの10%: 人の目とセンスで磨き上げる

最初と最後は、必ず人がつくる。その部分を、20年にわたってWeb構築・プロモーション・
事業プロデュースを手がけてきたwebullが担います。

よくある質問

Q. AIが間違えたら？

A. 公開前に必ず人が確認・承認。全変更が履歴に残り、ワンクリックで直前の状態に巻き戻せます。

Q. スタッフがAIを使えないと運用できない？

A. 指示は日本語です。必要なのは操作スキルではなく、ルールブックの整備と初期のレクチャー。

Q. WordPressの方が実績があるのでは？

A. 事実です。ただそれは「多くの人が使ってきた」証明であって、「これからの運営に最適」の証明ではありません。用途が違う道具です。

よくある質問

Q. 途中でやめたくなったら？特定の会社に依存しない？

A. コード・設計図・ルールブックはすべて御社の資産。扱える会社は他にもあります。むしろWordPressの独自テーマの方が、作った会社にしか触れない状態になりがちです。

Q. 更新は結局誰がやる？

A. ①御社スタッフがAIに指示、②運用パートナーが代行、③併用。どの形でも、ルールブックがあれば世界観は崩れません。

Q. AIで作ると「どこかで見たサイト」にならない？

A. 逆です。テンプレートを使う方が「どこかで見た」構造になります。AIネイティブは一からコードを書くため完全オリジナル。ただし初期デザインは人の手と目で構築し、その水準をルール化してAIに守らせます。

CONCLUSION

結論

今すぐの安心

→ WordPress

長期の運営効率・表現力・セキュリティ

→ AIネイティブ

段階移行も成立する。ただし設計図が先

どれを選んでも、先に必要なものは同じです。世界観の設計図と、運用のルールブック。これがないと、どの道具を選んでも今のサイトと同じ結果になります。そして道具が変わっても、この資産だけは御社に残り続けます。

導入の流れ

- 01 無料相談(現状サイトのヒアリング)
- 02 現状診断と移行プランのご提案
- 03 設計図・ルールブックの策定(人の仕事)
- 04 構築・移行(AI活用で高速に)
- 05 担当者レクチャー → 内製運用開始(または月額代行)

COMPANY

株式会社webull

LOCATION 大阪・北堀江

BUSINESS AI Web運用／イベント・プロモート／プロジェクト・プロデュース

AWARDS Event Marketing Awards シルバー賞(アジア2位)
第9回JACEイベントアワード 特別賞

WORKS 6,000人規模の音楽フェス、行政連携の大型プロジェクト等

CONTACT

まずは、いまのサイトの話から。



無料相談

webull.jp/contact